



槐魂

～7月号～

生徒会広報部

新生徒会へ引き継ごう。 先輩がたの紡いだ夕スキを

今回の寮生夜話では、交換留学をされた高校生の先輩方のありがたいお話を頂きました。

大矢颯樹

高校二年生の大矢先輩の留学先は日本と時差が十二時間もある、フランス。講演では、多くの留学生がその国の言語が上手く話せず、孤立してしまうことや、多くの困難にあつてもくじけない大きな志が必要だということに染み渡るほど経験した先輩方が留学がどれほどの難行かをメインに教えて下さいました。まだ進級まで時間があります。今回の講演をされた先輩方のように、自分の理想とする姿になれるように頑張りたいです。
〈白川〉

星乃直理

高校二年生の星乃先輩は、交換留学でアメリカのミネソタ州ベクトススキーに七か月ほど滞在されました。ベクトススキーはカナダに近く、家族の結びつきが強い地域で、星乃先輩もとても気に入るようでした。留学した動機は、英語が必要な環境を作りたかったのと食文化に以前から興味があったからだそうです。アメリカは、授業が完全選択制であり、日曜日は教会に行く必要があることなど、宗教や文化の違いを改めて実感したそうです。留学によって得られるものは、沢山あります。その中でも先輩は、「友達や、生きた英語が学べる。」と言っていました。皆さんもいつかは、留学を体験してみたいですか。
〈梅木〉

寮生夜話 寮行事

一学期の締めくくり、 一学期期末考査

休業期間中の頑張りを

思い出せ!

七月十三日から十五日にかけて期末考査が行われました。

新型コロナウイルスの影響により大幅に授業時間が減りましたが、オンライン授業や宿題の定期郵送などの先生方の取り組みによって学力の低下を防げた人は多かったのではないのでしょうか。

もうすぐ夏休みが始まります。

新型コロナウイルスの感染予防に努め、健康を留意しながら、勉強も怠けることなく日々のコツコツとした積み重ねを大切に充実した休みを過ごしてください。

〈白川〉

蛍光ペン。・梅木

▼私は育ってきた環境などの関係で、現在も含め「大人」や「大人の考え、発想」というものにこだわって生きてきた。大人の定義や成長の果てにあるものは分からないう。常に模範となる人物像を描き、それに近づけるよう日々努力し続けた。▼私自身、この桶車中に入学して大きく成長することが出来た。生徒会活動、寮生活、友達とのトラブルなどで様々な心情変化が起こり、今に至る。▼当時一年生だった私は、「他人と違う意見を持った大人な考え方」に憧れ、他人と比較して考え方の違いを探し出し、そうして生まれた自分の課題をひとつひとつこなしていった。行動を模倣して感情などを理解することが出来るレベルの洞察力やひとつのことに打ち込み完璧なまでに仕上げようとする根性。何事にも挑戦してみたいと思える好奇心を身に付けることが出来た。▼これは、ある出来事や今日一日を振り返る、つまり日々を同じ失敗を繰り返さぬように全力で生きることの価値がある。皆さんはできていないでしょうか。▼昨晩、宿題を終わらせるのに時間がかかると、睡眠に負けて寝てしまふ自由参加型の行事だからかといつて、参加しようとしていない。何が起こるか分からない人生において一分一秒を全力で生きること。新たな経験や価値観が生まれ大きな成長につながるのではないかと。▼そして今、桶車に入ってから一学期が過ぎようとしている。どれだけ私は理想の大人に近づけているだろうか。そして、これから私はどんな成長をしていくだろうか。どんなものにとらえかたをしているだろうか。そう考えるだけでワクワクしてくる。

新任の先生 紹介 Ver.2

松山和朗先生

今年から中学の数学科を担当される松山先生。今年度は、数学が好きな生徒を百人増やすことを目標にされているそうです。生徒に対して、「皆さんの夢を叶えるお手伝いをしたいと思います。来たるべき日のために頑張りますよ。」というお言葉を頂きました。登校時に正面玄関で挨拶運動をされています。元氣よく挨拶が返せるようにしていきたいです。



松山先生

丸田奨先生

「若者よ旅に出よ。」この言葉は、丸田先生が生徒に贈りたい言葉らしいです。また、ストレッチ発散に筋肉トレーニングを行っているそうで、今年度の目標に「体脂肪率を二十％から十五％にする」ということを掲げていました。最後に、前文の言葉は様々な苦難を乗り越えていってほしいというメッセージです。



丸田先生

仰げば尊し〜河野先生〜

「蹴上がり（という鉄棒の技）ができた生徒は次の通知表は全員5」、「秦の始皇帝、万里の長城」と、あそこの団地の主婦が『うるさい』と窓から顔を出すまで叫んで覚えろ」

以上、埼玉県に生息していた和一少年が、当時の教諭からいただいた、印象的な言葉の二つ。比較的真面目だった私にとって、先生の言葉はストリートに受け止めていたし、疑いもしなかったもので、一年時には級友と「秦の始皇帝、万里の長城」を、主婦たちが顔をしかめるまで帰り道でどなったし、中3の一学期は、休み時間の全てを鉄棒の練習に費やし、人生で初めて体育で5をもらった。

かなり無茶な指導はあったとは思いますが、先生方を信じた分、出来るようになったことや、自信がついたことも多かった。技術の先生が電気ロボットを制作する授業で、「二足歩行のロボは無理だから、四足動物ロボにしなさい。」とおっしゃれば、体の大部分が「負けず嫌い」でできている私は、意地でも「二足歩行ロボを作ろう」と思い、受験勉強をすっばかして、二足歩行ロボを完成させた。それは、右手と右足と一緒に前に出るといふ、誰がどう見ても人間とはかけ離れたロボットで数秒でひっくり返るバランスの悪さ。先生のアドバイス通り作った仲間たちのロボットの見事な出来栄に惨めになり、かなりへこんだことを覚えている。先生の言うとおりにすればよかった。そう思った私の二学期の技術の成績が、これまた人生最初で最後の5だったことも、決して忘れられない思い出である。

「だからアドバイスしただろう」と先生は言いたかったに違いない。その言葉の代わりに私の『意地』に對して5をくれた先生のふところの広さが、今の私にあるだろうか。森井先生、長嶋先生、大沢先生、柳先生。今先生たちを困らせることばかりだった河野和一は、あの頃の先生たちと同じく、中学の教師をやっています。本当にあの時はすみませんでした。そしてありがとうございます。

【編集後記】

私が委員長を務め、最終号の発行になります。今までこんな未熟な僕たちのサポートをしていただいた皆様、本当にありがとうございます。後期生徒会でも、どうぞよろしくお願い致します。

令和二年度六月生徒会新聞発行責任者 梅木岳人